

安全データシート (SDS)

作成 : 平成 15 年 11 月 26 日

最新改訂 : 令和 02 年 05 月 15 日

【1.製品名及び会社情報】

製品名 : **Mo (Powder, Granule, and Piece)**

会社名 : フルウチ化学株式会社
住所 : 東京都品川区南大井 6-17-17
担当部門 : 営業部
電話番号 : 03-3762-8161
FAX 番号 : 03-3766-8310
緊急連絡先 : 同上

推奨用途 : 電子部品材料、研究用途、工業用途。
整理番号 : 200515-09Hs

【2.危険有害性の要約】

GHS 分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分 2

健康有害性

急性毒性 (吸入 : 粉じん) : 区分外

特定標的臓器毒性 (単回暴露) : 区分 3 (気道刺激性)

環境有害性 :

※記載のないものは、分類対象外または分類できない

GHS ラベル要素

シンボルマーク :



炎



感嘆符

注意喚起語 :

警告

危険有害性情報 :

- ・ 可燃性固体。
- ・ 呼吸刺激を起こすおそれ、または、眠気やめまいのおそれ。

注意書き :

Furuuchi chemical SDS

No:200515-09Hs Molybdenum

<予防策>

- すべての安全注意(SDS など)を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
- 防爆型の機器を使用すること。
- 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 適切な保護手袋および保護眼鏡または保護面を着用すること。

<応急措置>

- 火災の場合には適切な消火剤を使用すること。
- 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合、直ちに口をすすぐこと。
- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
- 気分が悪いときは、医師に連絡すること。

<保管>

- 直射日光を避け、容器を密閉し、換気の良い冷暗所で施錠して保管すること。

<廃棄>

- 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【3.組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別：	単一製品
化学名又は一般名：	Mo
別名：	モリブデン、Molybdenum
化学式：	Mo
濃度範囲：	99.9%以上
CAS 番号：	7439-98-7
官報公示整理番号：	—

【4.応急措置】

- 以下のいずれの場合も直ちに医療機関に連絡し、医師または医療機関に適切な指示を求めるとともに速やかに医師の診断を受けられるように手配する。

飲み込んだ場合：

- 口をすすぐこと。医師に連絡すること。
- 気分が悪い場合、医師に連絡すること。

吸入した場合：

- 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

Furuuchi chemical SDS

No:200515-09Hs Molybdenum

- ・ 気分が悪い場合、呼吸に関する症状が出た場合は医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・ 速やかに多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・ 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ・ 直ちに汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

目に入った場合：

- ・ 直ちに瞼を開き多量の流水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。洗浄は眼球・瞼の裏、その他目の細部に至るまで完全に洗浄する。
- ・ 洗浄は少なくとも 20 分間行う。
- ・ 処置の最中から医療機関での処置に至るまで、被災者に付添人をつける。
- ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状：

吸入した場合：鼻、のどの刺激、喘鳴、頭痛、疲労感。

皮膚に付着した場合：皮膚刺激。

目に入った場合：眼刺激。

飲み込んだ場合：貧血、頭痛、発熱、吐き気、腹痛、筋肉痛、痛風。

最も重要な兆候及び症状：

- ・ データなし。

その他：

- ・ 暴露の影響は遅れて出ることがある。
- ・ 医師、医療関係者に暴露の状況を伝えるとともに、2次災害を防ぐための注意を通知する。

【5.火災時の措置】

消火剤：

- ・ 粉末状の本製品の場合、可燃性がある。
- ・ 粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、乾燥砂。

使ってはならない消火剤：

- ・ 水。

特定の危険有害性：

- ・ 火災により、刺激性／毒性のガスを生じるおそれがある。
- ・ 激しく加熱すると燃焼する。
- ・ 粉塵または煙霧は空気と爆発性混合気を体形成するおそれがある。

消火方法：

- ・ 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・ 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・ 消火後も大量の水を用いて容器を十分に冷却する。
- ・ 消火活動は風上から行う。
- ・ 金属火災には水ではなく、密閉法、窒息法による消火が好ましい。

消火を行う者の保護：

- ・ 消火は周囲の安全を確保し、適切な呼吸装置、防護衣などを着用して行う。

【6.漏出時の措置】

人体に対する注意事項：

- ・ 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- ・ 適切な保護具を着用するまで、破損した容器、漏出した本品に接触してはならない。
- ・ 風上に留まる。
- ・ 低地から離れる。
- ・ 密閉された場所に立ち入る場合、事前に換気する。
- ・ 漏洩物が粉末の場合、熱／火花／裸火／高温のもののような着火源を取り除くこと。

環境に対する注意事項：

- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 漏出物が河川、水路へ流出または地下へ浸透することを防ぐ

回収・中和：

- ・ 粉塵が飛散しないようにして漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法・機材：

- ・ 危険でなければ漏れを止める。
- ・ 漏洩物の粉塵が飛散する場合は水を散布し、飛散を抑える。
- ・ 廃棄に関しては「13.廃棄上の注意」を参照すること。

二次災害の防止：

- ・ 漏洩物が粉末の場合、着火源を取り除くと共に換気を行う。

【7.取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。
- ・ 皮膚や眼、衣服等に付着しないように、保護具、保護設備を使用する。
- ・ 粉塵が発生する場合は密閉化すること。

局所排気／全体換気：

- ・ 「8.暴露防止及び保護措置」の記載事項を参照のこと。

注意事項：

- ・ 作業場所では換気を十分に行う。
- ・ 緊急時に備えて、安全シャワーや洗眼の設備を備える。

安全取扱注意事項：

- ・ 使用前に取扱説明書、SDS等を入手すること。
- ・ 全ての安全注意(SDSなど)を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 粉じんの発生、堆積を防ぐこと。
- ・ 粉末状の本製品の場合、熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざける。
- ・ 接触、吸入または飲み込まないこと。
- ・ 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
- ・ 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 取扱後は手をよく洗うこと。
- ・ 屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。

Furuuchi chemical SDS

No:200515-09Hs Molybdenum

接触回避：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管

適切な保管条件：

- ・ 容器に密閉し、換気の良い乾燥した冷暗所に施錠して保管する。

避けるべき保管条件：

- ・ 日光、熱、赤熱状態、強酸化剤。

混触危険物質：

- ・ 「10.安定性及び反応性」を参照。

【8.暴露防止及び人に対する保護措置】

設備対策：

- ・ この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 暴露を防止するため、設備の密閉化又は局所排気装置を設置する。
- ・ 粉じんが発生する場合は密閉化すること。

暴露限界値

管理濃度：	労働安全衛生法	未設定
許容濃度：	日本産業衛生学会	未設定
	ACGIH (2007) TWA	10mg/m ³ (吸入性画分)
		3mg/m ³ (吸収性画分)

保護具：

- ・ 呼吸用保護具： 適切な呼吸保護具を着用すること。
- ・ 保護メガネ： 適切な保護メガネ、顔面保護具を着用すること。
- ・ 保護手袋： 適切な保護手袋を着用すること。
- ・ 保護長靴： 適切な保護具を着用すること。
- ・ 保護衣： 適正な保護衣を着用すること。

【9.物理的及び化学的性質】

外 観：	銀白色固体
臭い：	無臭
pH：	データなし
融点／凝固点：	2622℃
沸点、初留点と沸騰範囲：	約 4825℃
引火点：	データなし
発火点：	データなし
燃焼または爆発の範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比 重：	10.28 (20℃)
溶解度：	水に不溶
オクタノール／水分配係数：	logPow=0.23 (推定値)
分解温度：	データなし

【10.安定性及び反応性】

安定性： 通常使用条件化で安定。

Furuuchi chemical SDS

No:200515-09Hs Molybdenum

反応性：	化学的に不活性で耐酸性が極めて強い。 粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。 粉末の場合、熱、炎に曝されると炎を上げて急速に燃える。 特に粉末の状態では BrF ₃ 、ClF ₃ 、F ₂ 、PbO ₂ と激しく反応する。 強酸化剤と反応する可能性がある。 赤熱状態でリン、砒素、炭素、ケイ素、ホウ素と反応する。 赤熱状態で塩素、臭素、ヨウ素と反応する。
避けるべき条件・材料：	日光、熱、赤熱状態、強酸化剤、BrF ₃ 、ClF ₃ 、F ₂ 、PbO ₂ 。
危険有害な分解生成物：	データなし。

【11.有害性情報】

急性毒性：	経口	ラット	LD ₅₀ 値	データなし。
	経皮	ラット	LD ₅₀ 値	データなし。
	吸入	ラット	25-30mg/L の濃度で 1 時間暴露 (25mg/L の 4 時間換算値は 6.3mg/L) しても状態に変化が認められなかった。区分外。	
皮膚腐食性／刺激性：				データなし。
眼に対する重篤な損傷／刺激性：				データなし。
生殖細胞変異原性：				データ不足のため分類できない。 ラットを用いた in vivo 染色体異常試験において陽性 (CERI ハザードデータ集,2002) との記述があるが、使用組織が不明である。
呼吸器または皮膚感作性：				データなし。
発ガン性：				データなし。
生殖毒性：				データなし。
特性標的臓器／				
全身毒性(単回暴露)：				高濃度粉塵は上部気道を刺激するとの情報がある (CERI ハザードデータ集(2002)、ACGIH,2004)。区分 3 (気道刺激性)。
特定標的臓器／				
全身毒性(反復暴露)：				データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性：				データなし。

注意：・モリブデンの毒性症状について以下の情報がある

急性症状：ヒトに対して、消化管の刺激、下痢、重度の場合は昏睡、心不全による死亡を引き起こす。また動物実験では、水溶性モリブデン化合物の急性毒性として、吸入暴露による呼吸器と結膜を刺激する。

慢性症状：ヒトに対して、経口摂取あるいは高濃度粉塵暴露により関節の痛みおよび痛風様症状 (高尿酸血症、間接の変形、腫れ) が現れる (CERI ハザードデータ集,2002)。また動物実験では反復経口投与による骨、関節の変形、吸入暴露による肺あるいは気管支の腫瘍発生の増加が現れる。

・使用者は未知の有害性を常に存在するものとして十分な注意を払う必要がある。

【12.環境影響情報】

水生環境有害性(急性)：	データなし。
水生環境有害性(慢性)：	データなし。

【13.廃棄上の注意】

残余廃棄物：廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って、危険有害性のレベルを低い状態にする。

Furuuchi chemical SDS

No:200515-09Hs Molybdenum

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

容器： 付着物があることを十分に認識し、洗浄等して廃棄すること。
産業廃棄物として、規則に従って廃棄すること。

【14.輸送上の注意】

- ・ 陸上輸送：毒物及び劇物取締法及び消防法の規制に従う。
- ・ 海上輸送：船舶安全法の規制に従う。
- ・ 航空輸送：航空法の規制に従う。
- ・ 安全対策：重量物を上積みしない。
輸送に際しては、直射日光を避け容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ・ 国連分類：クラス 4.1
- ・ 国連番号：3089
- ・ 緊急時応急措置指針番号：170

【15.適用法令】

化審法：	—
労働安全衛生法：	名称を表示すべき危険物及び有害物（モリブデン（粉状のものに限る）；法第 57 条、令第 18 条） 名称を通知すべき危険物及び有害物（モリブデン及びその化合物；法第 57 条の 2、令第 18 条の 2） 危険物・発火性のもの（粉末の場合；金属粉，法第 20 条二、令別表第 1）
化学物質管理促進法（PRTR 法）：	第 1 種指定化学物質（法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1；モリブデン及びその化合物）
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	危険物第 2 類・第 2 種可燃性固体（金属粉；法第 2 条第 7 項別表第 1）
船舶安全法：	可燃性物質類・可燃性物質（金属粉末（可燃性のもの）；危規則第 2 条、第 3 条危険物告示別表第 1）
航空法：	可燃性物質類・可燃性物質（金属粉末（可燃性のもの）；則第 194 条危険物告示別表第 1）
水質汚濁防止法：	指定物質（法第 2 条、第 14 条の 2、令第 3 条の 3） モリブデン及びその化合物
大気汚染防止法：	有害大気汚染物質（法第 2 条第 13 項）モリブデン及びその化合物

【16.その他の情報】

- ・ 記載のデータや評価に関しては必ずしも十分ではありません。全ての化学製品には未知の危険有害性が有るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定ください。また特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。
- ・ 本データシートそのものは安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものであり、安全の保証書ではありません。
- ・ 製品の形状、状態に対する注意
 - i .製品名に対し、基本的に形状による物理化学的危険性、健康有害性及び環境有害

Furuuchi chemical SDS

No:200515-09Hs Molybdenum

性の変化が小さいときは、その形状を規定していない場合があります。但し、本文中で形状の変化による危険性、有害性の変化に言及していることもあります。また弊社にて想定していない環境においては、形状の差異により危険性、有害性が高まる場合もあります。

- ii. 製品名に対し **Powder, Granule** の表記がある場合は、製品が粉末又は顆粒状であることを意味しています。主に金属の場合には粉末状で、発火や爆発の危険性が高まる場合がありますので、ご注意ください。
- iii. 製品名に対し、**Piece** の表記がある場合は以下のような粉末状以外の形状を示しています。但し製品が塊状の場合であっても、保管、取扱いの状況により粉末（粉塵）が発生し、危険性、有害性が高まる可能性があります。形状の変化が起こり得る保管、使用環境が想定される場合には、事前に安全対策を実行してください。
Piece: Chips, Flakes, Chunk, Shot, Sheet, Wire, Stick, Rod, Pellet, Block, Ingot, Target.

参考文献

- ・ (独) 製品評価技術基盤機構 (NITE)
- ・ 理化学事典 第4版 岩波書店
- ・ 化学物質安全性データブック OHM 社
- ・ 化学品安全管理データブック 長瀬産業(株)
- ・ 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告
- ・ THE MERCK INDEX 12th EDITION
- ・ HSDB
- ・ ACGIH
- ・ 緊急時応急措置指針 改訂第3版 日本規格協会

【改訂履歴】

平成 15 年 11 月 26 日	第 2 版	整理番号 031126-00Ta	全般改訂
平成 15 年 11 月 26 日	第 3 版	整理番号 041015-02Ha	情報追加など
平成 17 年 01 月 28 日	第 4 版	整理番号 050128-01Ha	情報の追加・削除
平成 17 年 07 月 07 日	第 5 版	整理番号 050707-01Ha	情報の追加・削除
平成 21 年 10 月 01 日	第 6 版	整理番号 091001-06Ar	情報の修正
平成 23 年 06 月 06 日	第 7 版	整理番号 110606-07Hm	GHS 表記への対応等
平成 28 年 06 月 01 日	第 8 版	整理番号 110606-08Hs	安衛法改正への対応等
令和 02 年 05 月 15 日	第 9 版	整理番号 200515-09Hs	住所等修正